学会記事

日本きのこ学会第27回大会（2024年度）大会報告

日本きのこ学会第27回大会を2024年9月3日～4日に鳥取県米子市コンベンションセンターBIG SHIPを主会場として開催しましたので，その概要について報告いたします．本大会は，2022年2月28日～3月2日に完全オンラインでの開催を余儀なくされた第24回大会のリベンジ大会として位置づけ，対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で開催いたしました．リベンジということで，主会場および懇親会会場を同じ場所でご用意させていただきました．しかし，本大会開催を次週に控えた8月下旬より，台風10号（サンサン）が日本に近づき，その台風がゆっくりと九州を迂回しながら，本大会開催時期に合わせるように中国地方をめがけて進んできました．そのため，台風の直撃や台風後の交通機関の乱れが著しい場合には，「リベンジをあきらめ，再び完全オンライン開催も止むを得ないのかな？」と心配していました．しかし，幸いにも，その台風は大会直前の9月1日に消滅して熱帯低気圧になり，また，交通機関の乱れも少なかったことから，予定通り開催することができました．本当に安堵いたしました．

今回の大会には，日本の各地よりきのこに関する研究者や学生が174名，そして，韓国より2名，合計176名が参加していただきました．その内訳ですが，オンライン参加は25名，残り151名が現地参加でした．一方，研究成果報告ですが，学生の口頭発表は16題（内オンライン3題），一般の口頭発表は22題（内オンライン3題），そしてポスター発表は46題でした．鳥取という田舎で大会を開催する場合には，現地への移動が不便であるため，その不便さを解消すべく，オンライン参加も準備いたしました．しかし，意外にもオンライン参加や発表者が少なく，日本きのこ学会ではオンラインの準備をする必要性は少ないのではないかと思われました．また，本大会では，参加者の皆様が相互にコミュニケーションを深める環境づくりを重視し，口頭発表，ポスター発表および休憩スペースを同一会場（多目的広場）に集約しました．そのような環境下で成果報告が繰り広げられたなか，学生優秀発表賞，ポスター発表賞を厳正に審査し，以下の11題の発表を選定して表彰いたしました．

学生優秀発表賞

最優秀賞

St8　隠田美咲　大阪公立大学大学院
「アミスギタケの子実体形成に及ぼすアミノ酸の添加効果」

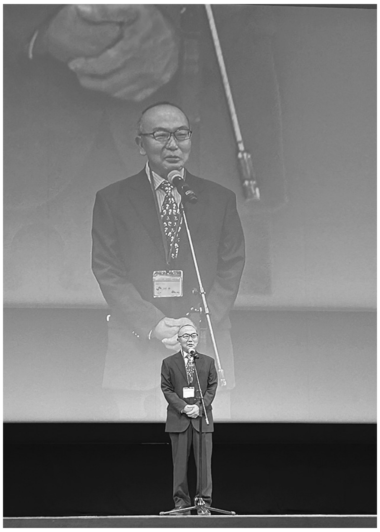
優秀賞

St1　齋藤すずな　鳥取大学大学院
「エノキタケ廃菌床を利用した土壌還元消毒法によるホウレンソウ萎凋病の抑制効果」

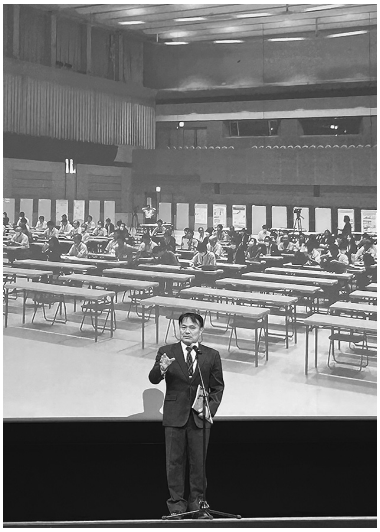
St7　前刀穂香　福井大学大学院
「カバノアナタケ培養菌糸体に含まれる生理活性物質の解析」

St10　中村綾那　大阪公立大学大学院
「バカマツタケの香気成分に関する研究」

St11　森井風詩　静岡大学大学院
「サナギタケにおけるフェアリー化合物の代謝に関する研究」



中谷会長挨拶



霜村大会委員長挨拶

ポスター発表賞

最優秀賞

P19　中田富美　福岡県農林総合試験場資源活用センター
「エノキタケ Thaumatin-like protein 遺伝子のトリコデルマ耐病性への関与」

優秀賞

P4　上田光宏　大阪公立大学大学院
「2 品種のシイタケ (*Lentinula edodes*) の自己消化におけるトレハロース代謝関連酵素について」

P5　大沼広宣　岩手生物工学研究センター
「アラゲキクラゲに含まれる新規紫色色素成分の単離と生物活性」

P25　村尾友美　昭和産業株式会社
「脱脂米ぬかを活用したブナシメジ菌床栽培用培地資材の開発」

P35　隠田美咲　大阪公立大学大学院
「アミスギタケの子実体形成に及ぼすアミノ酸の添加効果」

P43　米田　舜　栃木県林業技術センター
「ハタケシメジの営利栽培における袋栽培の有用性について」

また，学会賞や奨励賞等の受賞記念講演の対象となる成果を表彰する機会はありませんでしたが，以下の研究成果が技術奨励賞に相応しいと判断されましたので，本大会で表彰いたしました．

技術奨励賞

成松眞樹　岩手県林業技術センター
「日本産菌株を用いたアミガサタケの栽培化」

以上，受賞されました皆様，誠におめでとうございます．今後，益々活躍されることを期待しております．

さて，大会初日の夜には，米子ワシントンホテルプラザで懇親会を実施いたしました．第 24 回大会で実施できなく，今回の大会でも最もリベンジしたかったことは，本懇親会であります．第 24 回大会で準備していた大会参加者への「おもてなし」を，今回やっと実現することができました．宴会の途中ではありますが，催し物として「がいな太鼓」を披露させていただきました．「がいな」という言葉は，鳥取県西部の方言で，「大きい」という意味です．「がいな太鼓」で放たれる，迫力ある音を全身で感じて頂けましたでしょうか？また，懇親会の主役である食事のメニューですが，堪能いただけましたでしょうか？実は，第 24 回大会で準備していた内容と，今回の 27 回大会で準備していた内容では予期せぬ違いがありました．実は，第 24 回大会で予定していたメニュー内容よりグレードダウンを余儀なくされていました．この違いの背景には，近年の物価高があります．我々が想定していたメニューとはグレードが違っていたことに関しては，何卒ご容赦いただきたく存じます．なお，本懇親会の途中，高崎健康福祉大学

口頭発表での質疑応答の様子

表彰式における記念撮影

がいな太鼓

懇親会の様子

の熊倉先生より次の大会（第28回大会）の案内をしていただきました．次回は，きのこの大産地である群馬県で開催されます．次回の盛会を期待いたします．

大会の2日目には，きのこの品種に関する近年のトレンドについて理解を深めることを目的として，基調講演とシンポジウムを開催いたしました．農林水産省の立石氏，杉澤氏および全国食用きのこ種菌協会の福井氏より3題の基調講演，そして，株式会社キノックスの木村氏，森産業株式会社の牧野氏および株式会社北研の山内氏より3題のシンポジウム講演をしていただきました．基調講演では，新品種の審査基準，育成者権の保護，きのこ品種の保存・保管に関する多くの情報提供がありました．また，シンポジウムでは各社が目指す品種開発の現状と開発種菌の最新情報について報告があり，興味深く拝聴いたしました．基調講演およびシンポジウムともに情報量が多かったことから，制限時間では納めることが出来なく，質疑応答の時間を確保することが困難でした．きのこ品種は，きのこ産業の基盤であると同時に最も関心深い内容であるにも関わらず，質疑応答で議論を深めることができなかったことが，今回の大会の反省点であったと痛感いたしました．基調講演およびシンポジウムでご講演頂いた演者の方々には，本当にお世話になりました．

最後になりますが，本大会を開催するにあたり，会員の皆様の寛大なるご理解とご協力，および，団体会員の皆様の広告掲載のご協力のおかげで第27回リベンジ大会を無事終えることができました．本当にありがとうございました．本紙面をお借りしお礼申し上ます．

（大会委員長　鳥取大学農学部　霜村典宏）